

## 「第3回アドバイザー会議」における評価区分及び評価内容

調書番号:9 事業名:災害時避難路通行確保対策事業費補助金

アドバイザー	評価区分	評価内容
村上アドバイザー	「要改善」	<p>防災出張講座、個別訪問、電話連絡等で粘り強く取り組み、診断の実施率を100%に近づけると共に、設計や改修についても粘り強く取り組んでもらいたい。甲府市など密集した店舗等に対象を絞って対策を行っていくことも必要ではないかと思う。</p> <p>今年度実施する工務店を対象とした低コスト工法の研修会については、改修業者から所有者への働きかけに繋がるものであり、このような色々な取り組みにより、耐震の必要性を県民に周知していくことが必要である。</p> <p>今後は、建物の所有者が、世代交代により若い働く世代に替わっていくので、企業を通じて従業員に対して、所有する建物の耐震化の必要性について周知を行っていくことも良いのではないかと思う。</p>
小口アドバイザー	「要改善」	<p>避難路の安全確保に向けて、一生懸命努力を続けていることは伝わったが、災害がいつ発生してもおかしくないという状況を考えると、もう一步踏み込んだ工夫・努力が必要であることから、以下の3点を指摘する。</p> <p>①耐震診断が進まない理由について、共通するものが多いと思うので、市町村と一体となって、改善策の検討に取り組むこと。</p> <p>②耐震診断の実施が進んでいない路線については、その地域全体を対象としたセミナーを開催するなど、地域として取り組んで行くような雰囲気づくりを行っていくこと。</p> <p>③対象件数が一番多い甲府市について、連携を強化し、改善策の検討に取り組むこと。</p>
小澤アドバイザー	「要改善」	<p>大規模地震の切迫性が指摘されている中で、地域住民の避難路確保は最重要課題である。</p> <p>耐震化の促進に向けて、今後も、個別訪問などにより、粘り強く取り組んでもらいたい。</p> <p>所有者の費用負担を軽減するため、改修工事の低コスト化を進めるなど、耐震化に取り組みやすい環境整備に努めてもらいたい。</p>